

平成27年度 文部科学省事業

『地域における障害者スポーツ普及促進事業』 第4回有識者会議資料

スポーツのチカラで地域のみんなと行政が一つにまとまった社会を実現する方法

《かわさきインクルージョンモデル》

川崎市

作成：NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF企画部

日時：2015年11月26日10:00～12:00

場所：旧文部省庁舎2階第2会議室にて

目次

- I、事業の目的とモデルとなる組織
- II、地域のニーズと課題の把握
- III、かわさきインクルージョンモデル構想
- IV、事業実施前調査の内容
- V、事業コンセプトと各WGでの研究検討案

I、事業の目的とモデルとなる組織

【 目 的 】

スポーツのチカラで

地域のいろんな人達と一緒に

笑顔になれる地域社会を実現する。

【 明確化 】

地域の老若男女が集まる《**総合型地域スポーツクラブ**》を

一つの小さな地域コミュニティ体と捉え、

その地域コミュニティ内での「障害に対する意識の理解啓発」

ならびに「地域人材の育成と流通」を促進することで、

スポーツを手段として、

継続的に「**笑顔になれる場**」づくりを目指すための方法を

調査および実践研究する。

【総合型地域スポーツクラブ】とは

地域住民の自主的・主体的な運営参加により、学校等の公共施設や企業施設、地域人材、地域資源等を有効活用して地域ニーズに応える地域主体のスポーツクラブ。



スポーツを楽しみ健康になること自体も目的のひとつではあるが、
地域交流コミュニティの拠点として、
子どもから高齢者、障がいの有る無いに関わらず、
全ての住民が集い、
まちづくり・地域づくりを《総合的に》模索する場でもある。

地域のつながりを促進するための《装置》となる。

◎ モデル地区(川崎市高津区)の概要

川崎市の中心部に位置し、区東部は主に商業・工業地帯、区西部は主に、丘陵住宅地帯となっている。



【市立校】	高校	1校
	中学校	5校
	小学校	15校
	特別支援学校	1校

【人口】226,867人

【面積】16.36km²(東京ドーム1258個分)

【人口密度】13,870人/km²

(* 2015年5月時点)

◎ モデルとなる【NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF】の概要

【理事長】 平口 和宏

【クラブハウス】 川崎市高津区久本3-11-2川崎市立高津中学校内

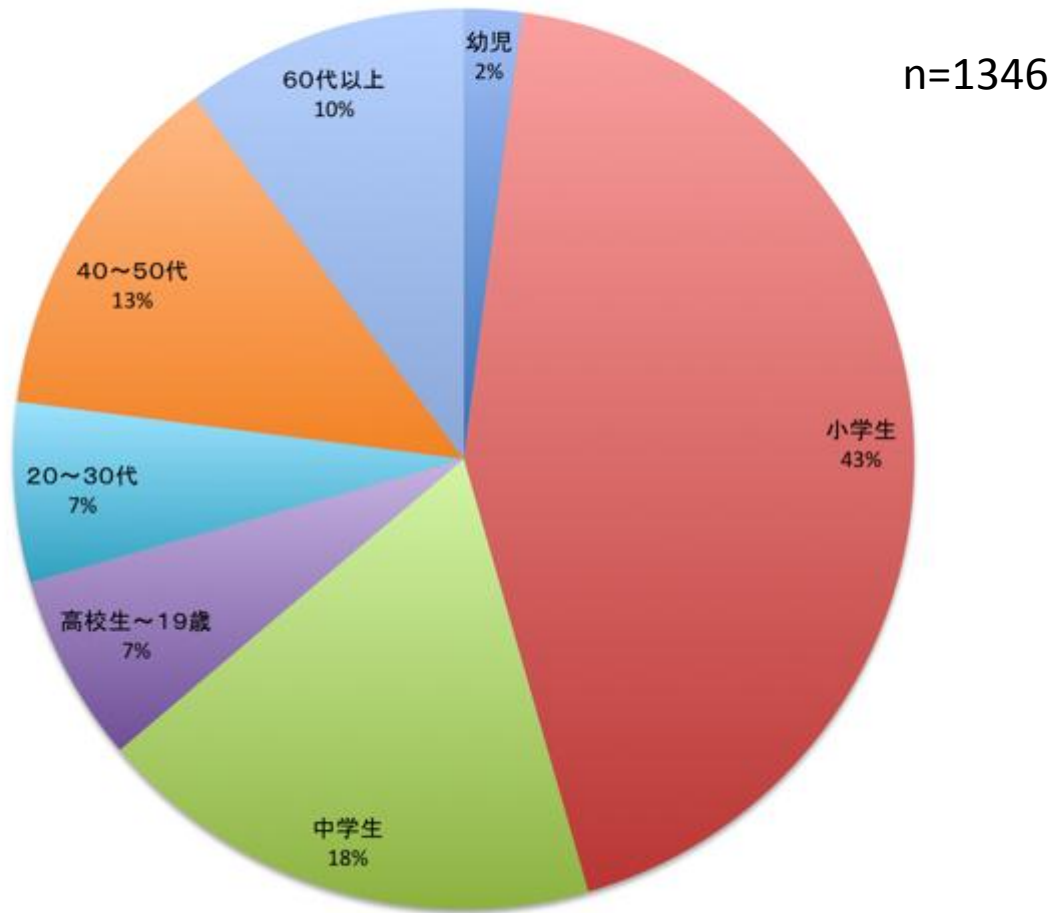
【会員数】 約1300名

【活動場所】 川崎市高津中学校ならびに川崎市立久本小学校施設

【運営会費】 一般会員1200円／月
18歳以下600円／月
シニア・障がい者600円／月

* 年間割引も有り。

【 会員年齢グラフ(2015年5月時点) 】





Sports

プログラムは40種類以上！
会員はすべて受け放題！

学校の校舎を有効活用し、地域の方が一人でも気軽に楽しい時間を過ごせるような《地域の遊び場》を創出しています！
子どもから高齢者など誰でも楽しめるプログラムがいっぱい！
ひとりでも、気が向いたときに気軽に参加できます。

☆プログラム一覧表 (2015.4時点)

会員は全プログラム受け放題！

*種目によっては対象年齢制限があります。詳しくはお問い合わせください。

月	・英語教室初級	18:00~19:20	【SELF会議室】	木	・脳トレ健康麻雀教室	13:00~16:00	【SELF会議室】
	・英語教室中級	19:30~20:45	【SELF会議室】		・茶道教室	13:30~15:30	【高津中茶道室】
	・卓球	19:00~20:45	【高津中武道場】		・キッズ☆チャンバラ	18:15~19:00	【高津中2F多目的室】
	・バレーボール	18:15~20:45	【久本小体育館】		・殺陣剣術教室	19:15~20:45	【高津中武道場】
	・キッズ☆ショートテニス	18:30~19:20	【高津中体育館】		・バドミントン	19:00~20:45	【高津中体育館】
	・ショートテニス	19:30~20:45	【高津中体育館】		・ウォーキング&ランニング	18:30~20:45	【高津中校庭】
	・大人のサッカー	19:00~20:45	【高津中校庭】		・硬式野球	18:30~20:45	【高津中サブグラウンド】
・社交ダンス	19:30~20:30	【高津中2F特活室】	・キッズ書道(第1・3)	17:00~18:30	【SELF会議室】		
火				金	・書道(第1・3)	18:30~20:00	【SELF会議室】
	・サッカー幼児~1年生	18:30~19:30	【高津中校庭】		・ヒップホップダンス教室	19:00~20:00	【高津中特活室】
	・サッカー4年生	19:30~20:45	【高津中校庭】		・ヨガ(第1・3)	10:00~11:30	【高津中特活室】
	・ニュースポーツ	19:00~20:45	【高津中体育館】		・3B体操(第2・4)	10:00~11:30	【高津中特活室】
	・フラダンス	19:00~20:45	【高津中武道場】		・サッカー2・3年生	18:30~19:30	【高津中校庭】
	・アメリカンフットボール	18:30~20:45	【高津中校庭】		・サッカー5・6年生	19:30~20:45	【高津中校庭】
	(フラグフットボール)				・小学生バドミントン	18:30~20:00	【久本小体育館】
水	・野球塾	18:30~20:45	【高津中サブグラウンド】	・卓球	19:00~20:45	【高津中武道場】	
	・空手教室(第2・4)	19:00~20:00	【高津中2F多目的室】	・ソフト&軟式	19:00~20:45	【高津中サブグラウンド】	
	・書道教室(第4)	18:00~20:00	【SELF会議室】	・ピラティス	9:00~10:00	【高津中特活室】	
	・少年野球	18:30~20:45	【高津中校庭】	・スナックゴルフ	9:00~11:00	【高津中テニスコート】	
	・バスケットボール	18:00~18:45	【高津中体育館】	・オープンエアダンス	10:30~11:45	【高津中特活室or多目的室】	
	・太極拳	19:00~20:45	【高津中武道場】	・空手教室(第1・3)	11:00~12:00	【高津中武道場】	
	・韓国語教室	19:00~20:30	【SELF会議室】	・囲碁・将棋で遊ぶ会	13:00~17:00	【SELF会議室】	
水	・レスリング	19:00~20:00	【高津中2F多目的室】	・走り方教室	18:30~20:45	【高津中校庭】	
				・合気道	19:00~20:45	【高津中武道場】	
				・バドミントン	19:00~20:45	【高津中体育館】	
				・ゴルフ教室	19:30~20:45	【高津中サブグラウンド】	



Enjoy

田植えや日帰りバスツアー、ファミリースポーツ縁日などの自主企画で、地域に笑顔の花を！

運動と食育、障がい者支援やスポーツツーリズムなど
楽しみながらの健康づくり！

HOME > SELF 4つの取り組み > Enjoy～イベント企画～

◎ 事例紹介



地域交流促進

◎ ファミリースポーツ縁日
～スポーツで笑顔づくり～

色々なスポーツを縁日感覚で楽しむイベント。模擬店もあったり、みんなでスマイル人文字を作ったり地域団体の活動発表も行う地域交流促進プロジェクト。



都市間交流促進

◎ 田植え&稲刈り体験
～運動と食育の連携～

千葉県南房総館山にある「ケロの里」でお米づくり体験。土に触れる機会の少ない都市部の子ども達と過疎化の進む地方農家をつなぐ都市間交流促進プロジェクト。



会員交流促進

◎ 日帰りバスツアー
～近郊の名所をウォーキング～

神奈川県近郊の湖や古都、山川や海などを、皆で楽しくゆっくりと健康づくりのウォーキング。SELFのマイクロバスを活用した会員交流促進プロジェクト。



障がい者支援

◎ SELFハートクラブ
～オープンエアな地域づくり～

オープンエアな(開かれた)環境のもと、障がいの有無に関わらずスポーツを気軽に楽しめる遊び場創り。地域・当事者の相互理解を促進するためのプロジェクト。

Life

学校との連携で教育や防災に貢献！
地域プログラムでひとづくり！

総合学習のプログラム開発、部活動との連携や学校イベントのサポート、放課後学習支援などによるひとづくり貢献！

■地域防災教育プログラムにおけるSELFの役割

災害から命を守る、地域の仕組み。

HOME > SELF 4つの取り組み > Life～学校と地域の連携～

◎ 事例紹介



放課後学習支援

◎ 地域の寺子屋事業
～地域の教育力向上～

学ぶ楽しさや、知る喜びを感じるきっかけづくり。地域の知恵袋であるシニア世代と児童との交流を促進し学力向上と地域の教育力向上を目指す。



学校部活動連携

◎ SELFみどりの会
～学校環境緑化の促進～

学校の先生方や部活動と連携し、地域の力で生徒の教育環境をサポート。自然科学部の生徒と地域の人と一緒に花壇づくりや畑作りなど学校の緑化を推進。



講師派遣

◎ 学校ふれあいフェスティバル
～地域講師の派遣～

近隣小・中学校の児童生徒を対象としたスポーツや文化活動の体験イベントに地域講師を多数派遣。様々な講座を行うことで児童生徒の好奇心を促進育成。



防災プログラム開発

◎ 地域防災教育授業
～総合学習事業の開発～

総合学習授業の一環として、学区の町会やPTAの方々も一緒に参加する形で「自助・共助・公助」の考えをもとに、中学生の「生きる力」を育むプログラムを開発。



Friendly

行政や企業ニーズへの協働や他団体との連携により地域課題を解決！

指定管理事業受託や行政協働事業受託、企業との協働、地域の他団体との連携を行い、地域の社会的ニーズに答え、よりよい地域づくり・まちづくりに貢献

HOME > SELF 4つの取り組み > Friendly～行政・企業・他団体との連携～

◎ 事例紹介



指定管理事業受託

◎ 市スポーツセンター管理運営
～公共施設の地域活用～

区行政より公共施設の指定管理を地域NPOが受けることで、地域資源の地域管理ならびに活用が可能に。地域住民が管理しているからこそ地域ニーズを的確に反映。



学校施設管理業務受託

◎ 小・中学校施設の地域管理
～地域雇用の創出～

市教育委員会より学校施設地域管理業務を受託。地域のシニア世代の雇用を創出。地域の人が学校の掃除や樹木の管理をしているため先生や児童の安心感もアップ。



学校施設開放利用調整

◎ 施設開放運営委員会の運営
～近隣4校の利用調整～

学校施設開放の利用調整業務を市教育委員会より受託。4校同時に地域管理調整することにより、複数団体の同時利用調整などで利用できる団体が大幅に増加。



文部科学省との連携

◎ 小学校体育授業への講師派遣
～アスリートが地域で活躍～

文科省事業としてしない小学校へアスリートを派遣。授業運営のアシストを行うことで先生方をサポート。アスリートの活躍の場を地域で創り出すことにも貢献。

【法人コンセプト】

地域みんなの「遊び場」を
スポーツを「手段」として
自分たちの手で創り出す。

(S E L F)

Ⅱ、地域ニーズと課題の把握

◎ これまでの活動の中で聞こえてきた声

- 【当事者や保護者の声】…………… 学校卒業後は、競技型スポーツを行なう場はある程度あるが、健康づくり、仲間づくりの場や余暇活動の場としてカラダを動かし楽しむ機会が地域には少ない。
- 【地域の方の声】…………… 障がい者支援などに関心はあるが関わる機会が無い。また、機会があったとしてもどうしたらいいのかが分からない。**不安。怖い。**
- 【クラブの声】…………… 場所と道具は用意できるが、マンパワーが足りない。単発イベントはやれるが継続が難しい。

地域の側に、

「知らない」という障害がある。

専門家の目線

【運動機能】や【障害】そのものへの着目

「障害」は人にあるんじゃない、
人と人との関係性、つまり、
社会の側にあるのだ。

◎ 機会均等の必要性

障がいに向けた概念「people with disability」
(能力のない人)



人に向けた概念「people with disopportunity」の提案
(機会に恵まれていない人)

「障害者」とは、
「社会や人に潜む障害や課題を明確に教えてくれる者」
の略であると考えてみる。

「障害者」 → 「社会課題発見者」
(ファウンダー)

「健常者」 → 「社会課題解決者」
(ソリューション・パートナー)

より良い社会を創造するためのパートナーである。

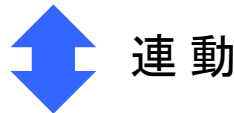
Ⅲ、かわさきインクルージョンモデル構想

◎ 《かわさきインクルージョンモデル》のポイント

《かわさきインクルージョンモデル》とは、
総合型地域スポーツクラブという「場」を介した
「知識・ヒト・モノ・カネの流通促進システム」のこと

そのために

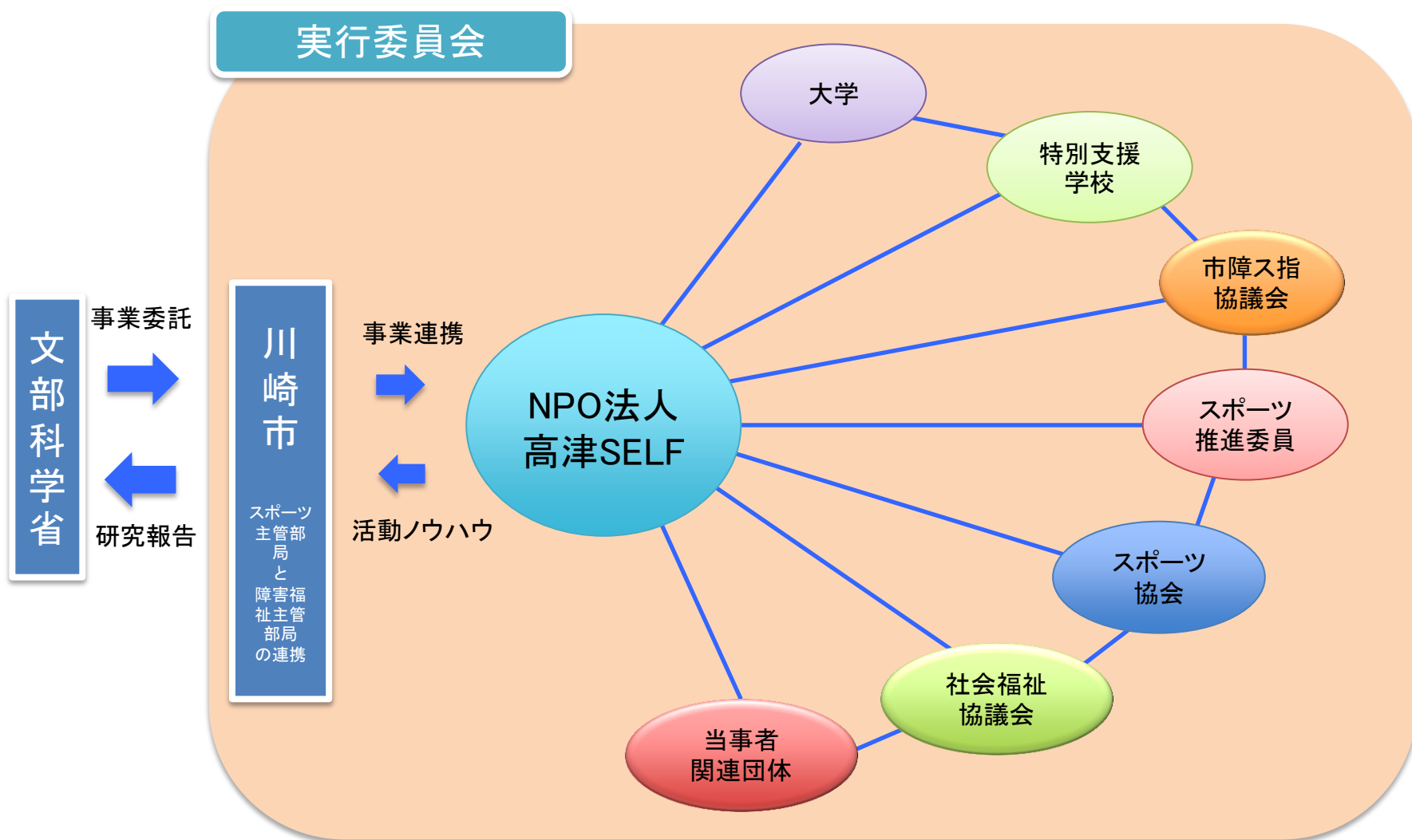
I、地域における障害理解啓発に向けた「**広報**」、ならびに当事者および関係者へ向けた「**継続的な情報発信システムの構築**」によるアクセシビリティ向上を図る



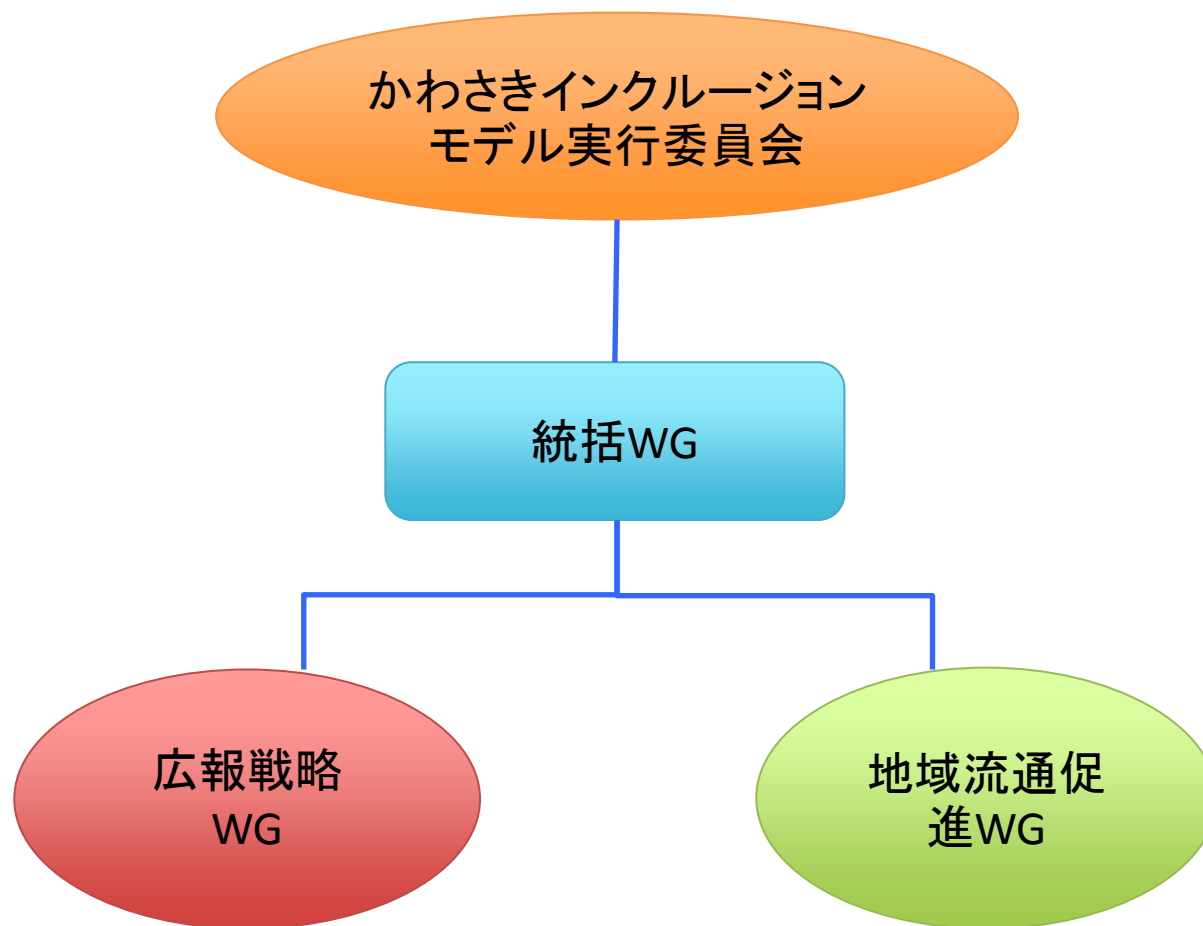
連動

II、障害者スポーツ環境の普及促進に向けた「**地域支援者に対する支援**」の促進と「**有資格・有知識者の継続的な地域配置システム**」の構築を図る

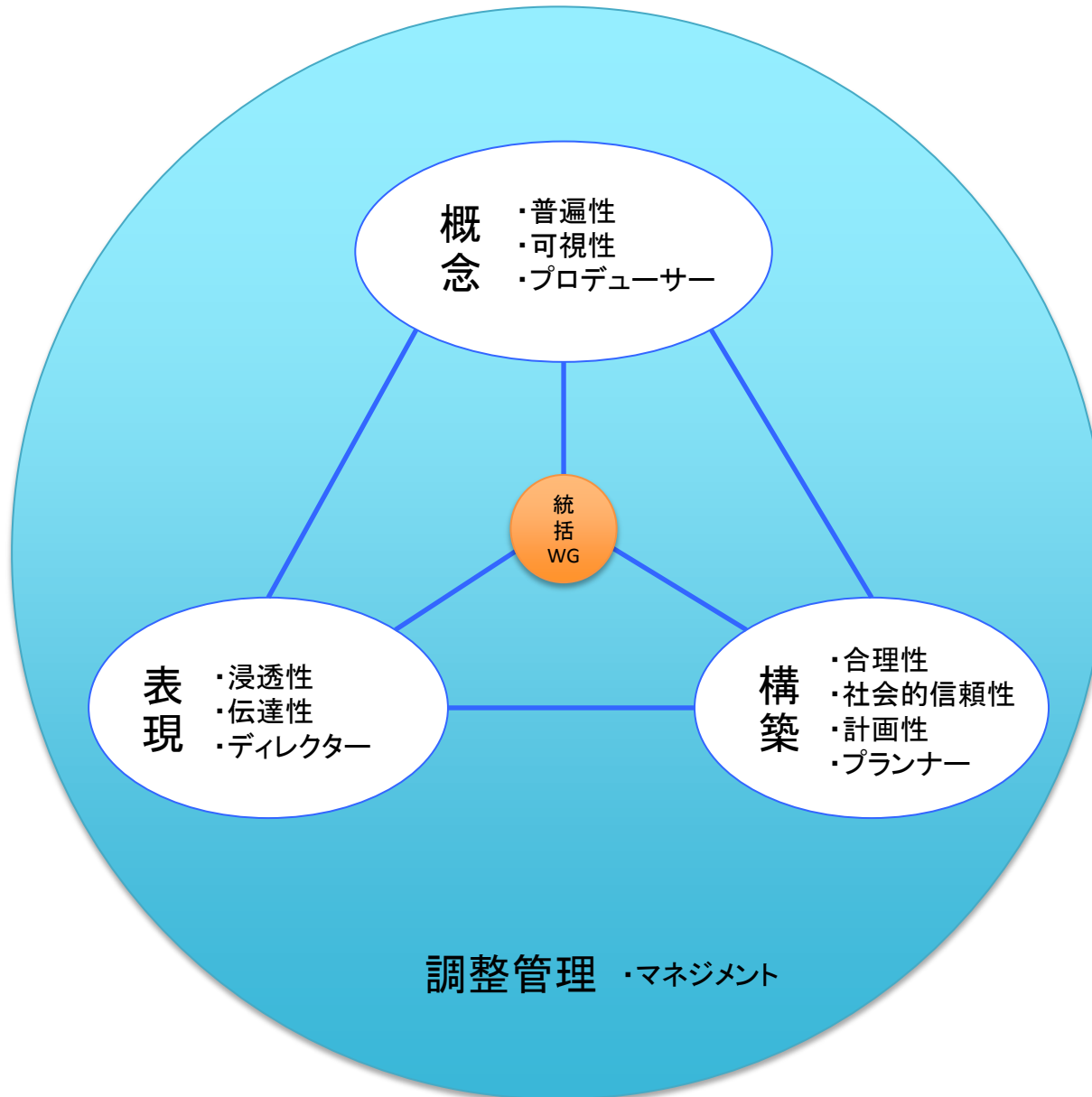
◎ 《かわさきインクルージョンモデル》実行委員会 構成イメージ



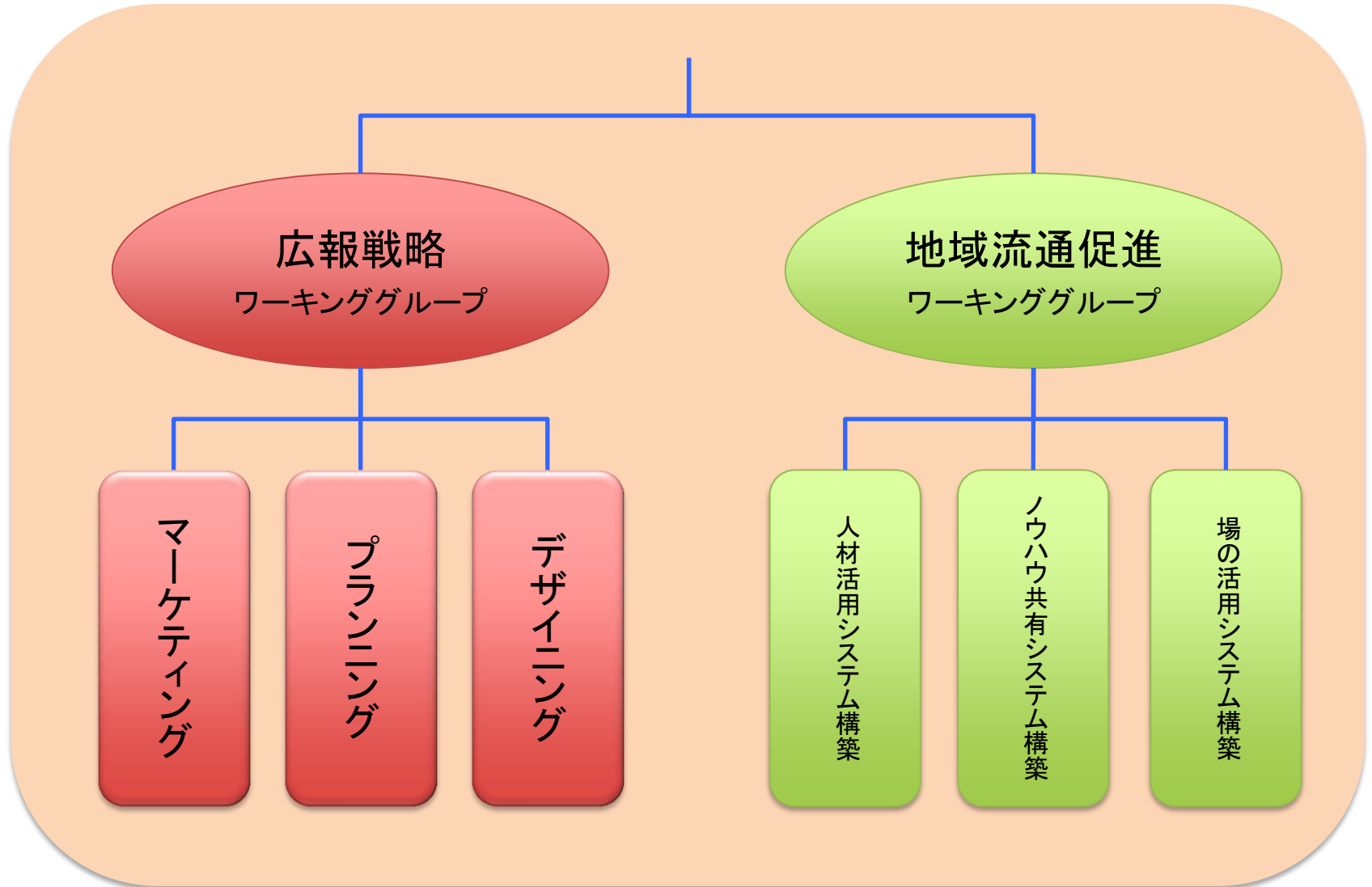
◎ 実行委員会の構成形態



◎ 統括ワーキンググループの構造



◎ 各ワーキンググループの構造



実行委員会の審議・承認を経て
統括WGが2つのWGを連携させながら実践研究を実施する。



研究結果として・・・

◎ 定性データの集計と分析

- ・今回の実践研究により、当事者・保護者や支援者等を含む地域の意識がどのように変化したかを分析

◎ 定量データの集計と分析

- ・区内におけるボランティアの数やプログラム数の変化、イベント等の開催数と参加者数の分析
- ・当事者の体重の推移など、ユニークでわかりやすく課題解決にもなっている集計分析も検討

◎ 3年間の具体的な取り組み案(初年度)

【初年度の取り組み:理解啓発、支援促進に向けた調査および実践研究】

- ・地域における障害に対する認識や意識についての調査
- ・障害理解促進に対する効果的な啓発広報についての調査および実践研究
- ・地域支援者に対する支援システムの構築に向けた調査および実践研究

【初年度研究報告の到達目標】

◎ 障害理解促進に対する効果的な啓発広報プロジェクトの調査および実践研究報告

- ⇒ 障害(者)に対して社会が抱える意識のマーケティング調査研究
- ⇒ 障害理解啓発に向けたインパクトのある効果的な広報戦略プランニング

◎ 地域支援者に対する支援システムの構築に向けた調査および実践研究報告

- ⇒ 障害者サポーター(仮称)認定制度構築に向けて必要な条件についての調査研究
- ⇒ 地域における指導者講習会プログラム等開発についての調査および実践研究
- ⇒ スポーツ推進委員や総合型地域クラブスタッフのプログラム参加促進に向けた調査および実践研究
- ⇒ 障害者スポーツの継続的な環境構築に必要な条件についての調査および実践研究

◎ 3年間の具体的な取り組み案(次年度)

【次年度の取り組み:理解啓発、支援促進に向けた調査および実践研究(継続)】

- ・障害理解促進に対する効果的な啓発広報についての調査および実践研究(継続)
- ・地域支援者に対する支援システムの構築に向けた調査および実践研究(継続)

【次年度研究報告の到達目標】

◎ 障害理解促進に対する効果的な啓発広報プロジェクトの調査および実践研究報告

- ⇒ 障害理解啓発に向けたインパクトのある効果的な広報デザイン
- ⇒ 当事者および関係者のアクセシビリティ向上のための継続的な情報発信システム構築に向けた調査および実践研究

◎ 地域支援者に対する支援システムの構築に向けた調査および実践研究報告

- ⇒ 障害者サポーター(仮称)認定制度普及促進に向けた実践研究
- ⇒ 指導資格保有者の効果的な地域配置活用に向けた調査および実践研究
- ⇒ 中学生～大学生への障害理解促進ならびにサポーター講習会開催にむけた調査および実践研究
- ⇒ 障害者スポーツの継続的な環境構築に向けた調査および実践研究

◎ 3年間の具体的な取り組み案(最終年度)

【最終年度の取り組み:効果測定と水平展開に向けた調査および実践研究】

- ・障害者スポーツ普及促進にむけた継続的な情報発信システム構築の調査および実践研究
- ・地域支援者に対する支援システムの構築に向けた調査および実践研究
- ・前年度までの実践研究の継続および効果測定と地域クラブや公共スポーツセンター等での水平展開にむけた研究

【最終年度研究の到達目標】

◎ 障害理解促進に対する効果的な啓発広報プロジェクトの調査および実践研究

- ⇒ 障害理解啓発に対する広報の効果測定
- ⇒ 継続的な情報発信システムに関する効果測定および普及促進方法の調査および実施研究

◎ 地域支援者に対する支援システムの普及促進に向けた調査および実践研究

- ⇒ 障害者サポーター(仮称)認定制度の普及に向けた実践研究
- ⇒ 地域包括支援システムの確立に向けた水平展開への実践研究

◎ かわさきインクルージョンモデル 3年間の取組スケジュール(案)

	平成27度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 以降 (2018～)
障害者スポーツの普及促進に向けた検討の流れ	<p>啓発・広報の調査・実践研究</p> <p>認定制度&ネットワーク構築に向けた調査・実践研究</p>		<p>水平展開に向けた調査・効果測定</p>	<p>水平展開に向けた取組推進</p>
実行委員会	<p>9/15 第1回</p> <p>11月頃 第2回</p> <p>2月頃 第3回</p> <p>・WG活動内容確認・意見交換</p>	<p>開催(年4回程度)</p>	<p>開催(年4回程度)</p>	
理解啓発&情報伝達・広報WG	<p>・WGメンバー決定</p> <p>・アンケート内容検討・実施(取りまとめ・公表)</p>	<p>・理解啓発キャンペーン実践研究</p> <p>・効率的な情報共有方法の調査・実践研究</p>	<p>・水平展開に向けた調査・効果測定等</p>	
障害者サポーター認定制度&ネットワーク構築WG	<p>・WGメンバー決定</p> <p>・サポーター認定制度検討(制度構築・プレ講習会実施)</p>	<p>・認定制度の実践研究</p> <p>・人材ネットワーク構築に向けての実践研究</p>	<p>・認定制度の実施研究</p> <p>・人材ネットワーク構築実践研究</p> <p>・水平展開に向けた調査等</p>	
イベント	<p>★11/7チャレンジドカップ</p> <p>★12/5ファミリースポーツ縁日</p>			

IV、事業実施前調査の内容検討

◎ アンケート調査対象者の選定

大人は、意識変革が難しい。

子どもは、障害者理解に対して比較的柔軟だ。

子どもは、大人の行動をみて育つ。

大人は、子どもからの影響を受ける。



子どもに対する障害理解啓発キャンペーンを行うことで、大人も意識が変わり、地域全体の障害理解度が上がると予想。

◎ 調査項目の選定ポイント

- ・アンケート調査自体が、障害者の現状を知り、「障害」と向き合うためのキャンペーンとなるように設問する。 → 思いやりを測定する尺度として「あいてを思いやる」藤枝・相川尺度(2001)を使用。
- ・設問で使用する言葉などにより障害者に対する意識がマイナスイメージにならないようにする。
- ・設問内容がわかりやすいものとする。子どもがわかりやすい言葉を使う。
- ・総合型地域クラブ参加者と非参加者で比較できるようにする。

◎ アンケート対象者の選定

【対象】 小学4年生～中学生とその保護者

- ・ 9歳～15歳のSELF会員数

男子 380名 女子 219名 合計595名

- ・ 保護者

予想数200名

* 高津中学校の生徒にアンケート調査できるよう学校に相談する予定。



地域における「障害」に対する認識ならびに意識の現状を把握し、次年度以降の事業に活かしていく。

V、事業コンセプトと各WGでの今後の研究検討内容

◎『オープンエア』というコンセプトの導入

【OPEN】 ⇒ 開く。

【AIR】 ⇒ 空気、雰囲気、空。



閉塞した状況から「解放」される。

覆いかぶさっていたものから、「開放」される。

雨雲の切れ間から、青空が広がっていくさま。

『オープンエアプログラム』

誰もが参加できる機会があり、楽しめる。

日頃のストレスから心身が解放される。

体の働き、動きをコントロールするライフスキルが身につく。

統括
ワーキンググループ

【WGでの研究・検討案】

◎ 事前調査(マーケティング)

- ・「障害」に対する認識を知る内容の調査項目設定
- ・最終年度に効果測定可能となるような調査項目の設定
- ・「障害」に対する意識を図るための新しい尺度の開発

◎ 座談会の開催

- ・参加者、保護者、クラブ会員、クラブスタッフその他地域住民などを対象に、感じていることや考えていることなど身の回りの現状をざっくばらんに出し合う。

◎ ワークショップ等の開催

- ・「障害」に対するイメージを五感で捉えてみる。形(○・△・□)、色(赤・青・黄)、音(グワツ・シュツ・ドン)など。

広報戦略

ワーキンググループ

【WGでの研究・検討案】

◎ 地域イベント等での理解啓発促進キャンペーン

- ・特別支援学校等と連携し、当事者が青年大使となり、地域イベントに来賓者として参加し、挨拶をさせてもらう。
- ・既存の地域スポーツイベントへの当事者の参加促進(発表等参加だけではなく、スタッフとしての参加も促進)

◎ 地域の方のプログラム参加促進の仕組みづくり

- ・SELFの『スマイルメーカー制度』などを活用して地域での参加促進の仕組みをつくる

◎ 総合型地域スポーツクラブのブランディング

- ・地域のスポーツ活動の場の認知度向上によるスポーツ実施率の増加を図る

◎ ICT(情報通信技術)の開発研究

- ・当事者支援者双方が、地域で行われているプログラムやイベントの情報を共有できるようなアプリ等の開発研究

◎ 障害者サポーター認定制度「オープンエアメーカー認定制度」のシステム構築

- ・地域で関心のある人材を増やすためのシステム構築。
- ・認定制度のネーミングも検討。→「オープンエアメーカー」
- ・実施主体の選定
- ・認定制度の受講者増加のシステム構築
- ・小学生～中学生への啓発活動

◎ 人材流通ネットワークの構築

- ・大学生の現場への参加促進システム構築（単位取得につながるように検討）
- ・社会福祉協議会等と現場の具体的かつ継続的な人材流通ネットワークの確立。（情報共有方法の検討など）
- ・指導資格保有者の効果的な地域配置

◎ 目的に対する目標

- 1、 総合型地域クラブ会員の意識改革を行い、会員の中から障害者に対する理解を持つ人であり、「機会をつくる人＝オープンエアメーカー」を育成する。
- 2、 障害者スポーツ指導者資格保有者に地域における活躍の場の情報を継続的に伝え参加してもらうことで、総合型地域クラブ等の中で「障害者も参加可能なプログラム＝オープンエアプログラム」を増やす。
- 3、 上記1・2を踏まえ、高津SELFの障害者会員割合(現2%)を4～6%に増やす。